

2019年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者C日程 試験問題

刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

<解答上の注意>

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 六法は貸与品なので，折り曲げや書込みをしないこと。なお，書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後，解答用紙と貸与した六法を回収するので，指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

【問題1】 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設問1〕（配点30点）

暴力団の組長であるXは、配下の組員甲に対し「対立する暴力団の組長Vを射殺しよう。拳銃を渡すからこれで撃ってくれ。成功したら、報酬として100万円をやる。」と話を持ちかけたところ、甲はこれを了承して拳銃を受け取った。

実行する当日になり、Xは、この計画を断念しようと考え、V殺害の現場まで来ていた甲に対し、電話で「この計画は中止だ。報酬の話もなしだ。」と強い口調で指示したが、甲は、Xに対し「今さら引き下がれません。私一人ででもやります。報酬もありません。」と告げて電話を切った。その直後、甲は、Vを射殺した。

Xの罪責を論じなさい（但し、特別法違反の罪を除く。）。

〔設問2〕（配点30点）

Yは、強盗事件を犯し、警察から指名手配を受け、逃走していたところ、乙に対し「自分は強盗事件を起こして警察に追われている。匿ってくれ。」と告げて自己を匿うよう依頼したところ、乙は、これに応じて、自宅でYを匿った。

Yの罪責を論じなさい（但し、特別法違反の罪を除く。）。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の事例を読み、後記〔設問〕に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

【事 例】

1 警察官Pらは、被害者Vに対する殺人事件を捜査していたところ、住居不定であり食料品の万引きで多数の検挙歴があるAが犯人である疑いが強くなったものの、殺人で逮捕できるまでの証拠を得られなかった。

そこで、Pは、Aが食料品の万引きに及べばそれを機会に窃盗の事実でAを逮捕した上、Aに対し上記殺人事件の取調べを行うなどの捜査を継続しようと考えてAを尾行していた。そうしたところ、Pは、平成31年1月10日、Aがコンビニエンスストアにおいて500円相当の弁当を万引きしたところを現認した。そこで、Pは、間もなく、同店の目の前にある駐車場において、同店から逃走したAを窃盗の被疑事実で現行犯逮捕した。

2 Pは、逮捕後、直ちにAに対し上記窃盗事件での取調べを行ったものの、Aは黙秘した。翌11日から同月20日までの間、Aは上記窃盗の被疑事実で勾留された。その間、Pは、Aの取調べを行ったが、上記窃盗事件に関しては、取調べやその他の捜査を行わず、終始、上記殺人事件に関する取調べを行っていた。

結局、検察官は、勾留期限の同月20日、Aを起訴せずに釈放した。

〔設 問〕 (配点40点)

下線部の逮捕及び勾留の適法性について、逮捕及び勾留の要件を充足するかも含め具体的事実を摘示しつつ論じなさい。

**《問題2 以上》
《刑事法系問題 以上》**

【出題意図】

【問題 1】

設問 1 は共犯関係からの離脱について，具体的事例を通じて理論的理解及び事例処理能力を問うものである。

設問 2 は，犯人蔵匿罪に関し，他人を唆して自己を蔵匿させた者の罪責につき，具体的事例を通じて理論的理解及び事例処理能力を問うものである。

【問題 2】

本問は，逮捕・勾留の法定要件の充足及び別件逮捕勾留について問うものである。